

鹿児島県宝島「女神山」の森林植生と東海岸の
隆起サンゴ礁上植生について

寺田 仁志・大屋 哲

鹿児島県立博物館
KAGOSHIMA PREFECTURAL MUSEUM
KAGOSHIMA, JAPAN

鹿児島県宝島「女神山」の森林植生と東海岸の隆起サンゴ礁上植生について

寺田 仁志* ・ 大屋 哲**

The Forest vegetation of Megamiyama and the vegetation of the upheaved coral reefs around the east coast of Takara-jima, Kagoshima Prefecture

Jinshi TERADA * and Satoshi OOYA **

はじめに

トカラ列島は動物地理上重要な地域で、温帯系の旧北区と熱帯系の東洋区との境界（渡瀬ライン）があるとされ、この間が最終氷期以降一度も接続されなかったという地史的見地から悪石島と小宝島・宝島間に引くのがよいといわれる。

植物地理上も同様に宝島は推移帯で、植物相に南限種、北限種を多数含み、温帯性の全北区と熱帯性の旧熱帯区との境界域とみることができる。

また、小宝島・宝島は大規模な隆起サンゴ礁地形が発達する北限地と言われ、低地部はサンゴ礁の炭酸カルシウムのため塩基性土壌になっている。隆起サンゴ礁が発達する低地部は古来より集落が形成され、農耕や薪炭材生産のための伐採等の人為的な改変によって本来の自然植生は見られない。さらに近年の農地改善事業によって大規模な農地造成が行われ、地域本来の自然植生で特に発達した森林を見ることができる場所は、きわめて限定的である。

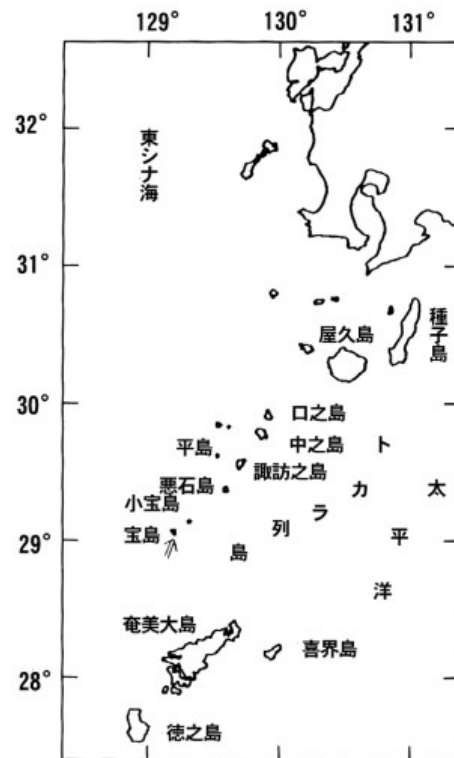
トカラ列島には山岳信仰があり、メガミ、ネガミ、オガミと呼ばれる地名は聖地とされる。悪石島では根上（女神）山（141m）、中之島ではネガミ岳（396.2m）、小宝島では竹山（102.7m）等と呼ばれる丘陵はいずれも、集落の近くにあつて見晴らしがよく、かといって高くなく、無理なく祭祀を行えるため、巫女が男達の航海安全を祈る森であった。このため、神聖な場所として島民は近づくことも少なく木々の伐採を厳しく禁じていた。宝島の女神山（130m）は、島の北部にあり、海岸及び集落に近く祭司を執り行う聖地であった。

聖地としてまとまって自然林が見られる宝島女神山の森林植生は、南西諸島のみならず、東アジアの中緯度地方の自然を象徴するきわめて希少な存在である。

また、宝島の東側海岸にある「砂漠」は隆起サン

ゴ礁上に発達する砂丘地で海岸砂丘の後背に二次砂丘が形成され、砂丘植生が発達している。南西諸島において二次砂丘は耕作地や住宅地として利用され、自然植生が残る立地はほとんどなく、砂漠の砂丘地植生は地域の自然を代表する砂地群落となっている。

宝島の植生については、2000年に鹿児島県立博物館研究報告（第19号）で、「トカラ列島宝島の現存植生と植物相」で報告したが、短期間の調査であったため女神山をはじめ宝島の卓越した自然について群落構造や植生配分等についてふれることができなかった。2011年3月に鹿児島県自然保護課、NPO法人トカライインターフェイス、7月に文化庁、2012年3月に十島村役場の支援を得て調査を行ったのでその結果を報告する。



図一 宝島位置図

* 鹿児島県立埋蔵文化財センター：〒899-4318 霧島市国分上野原縄文の森2-1

** 鹿児島県立博物館：〒892-0853 鹿児島市城山町1-1

1 調査内容

女神山の森林植生，宝島海岸部の隆起サンゴ礁上植生について(1)植生調査 (2)植生配分調査 (3)現存植生図の作成調査 (4)接線法による毎木調査を行った。

2 調査方法

(1) 植物群落調査 (植生調査)

調査対象地の森林のうち種組成が均一な群落を対象にし，高木林は125～400㎡，低木林は25～100㎡，草本群落は1～25㎡の調査面積で形状は必ずしも方形枠にこだわらず，群落の形状，分布状態に対応して調査地点を設定し，各調査区域において各階層の植物について総合優占度（各植物が地表面を覆っている割合を階級基準によってあらわす），群度（各植物の分散状態を階級基準によってあらわす）を全推定法（Braun-Blanquet 1964）によって記録した。

(2) 植生配分調査

隆起サンゴ礁上の植物群落が汀線から耕作地あるいは道路までがどのような配分になっているかを調べるため汀線から巻き尺をのびし，巻き尺に接する植物群落を汀線からの距離で記録した。

(3) 現存植生図作成調査

植物群落調査資料をもとに既発表資料を参考にして群落区分を行なった。この結果をもとにして調査区域内の現存植生がどの範疇に入るか相観によって判断し，地図上に記録する現地調査を行なった。群落の広がりについては空中写真（平成11年度十島村撮影及び2012年1月時点の（Google Earth）を参考に現地調査から境界を確定した。

(4) 接線法による毎木調査

女神山の自然林について，起点から高木林では約50mの区間で巻き尺を伸長させ，その上部を覆う樹木のうち樹高1.5m以上，胸高直径3cm以上の樹木について，起点からの距離，樹種，胸高直径，樹高を記録した。ただしビロウについては高さ2m以上のものを対象とし，1.5mの高さでの胸高直径が計測できないものについては高さ30cm以上のところでの直径を計測し記録した。なお，調査に当たっては伸縮式樹高尺，胸高直径計測用メジャーを使用した。

3 調査日

2011年3月4日～5日

女神山毎木調査，西海岸植生配分調査

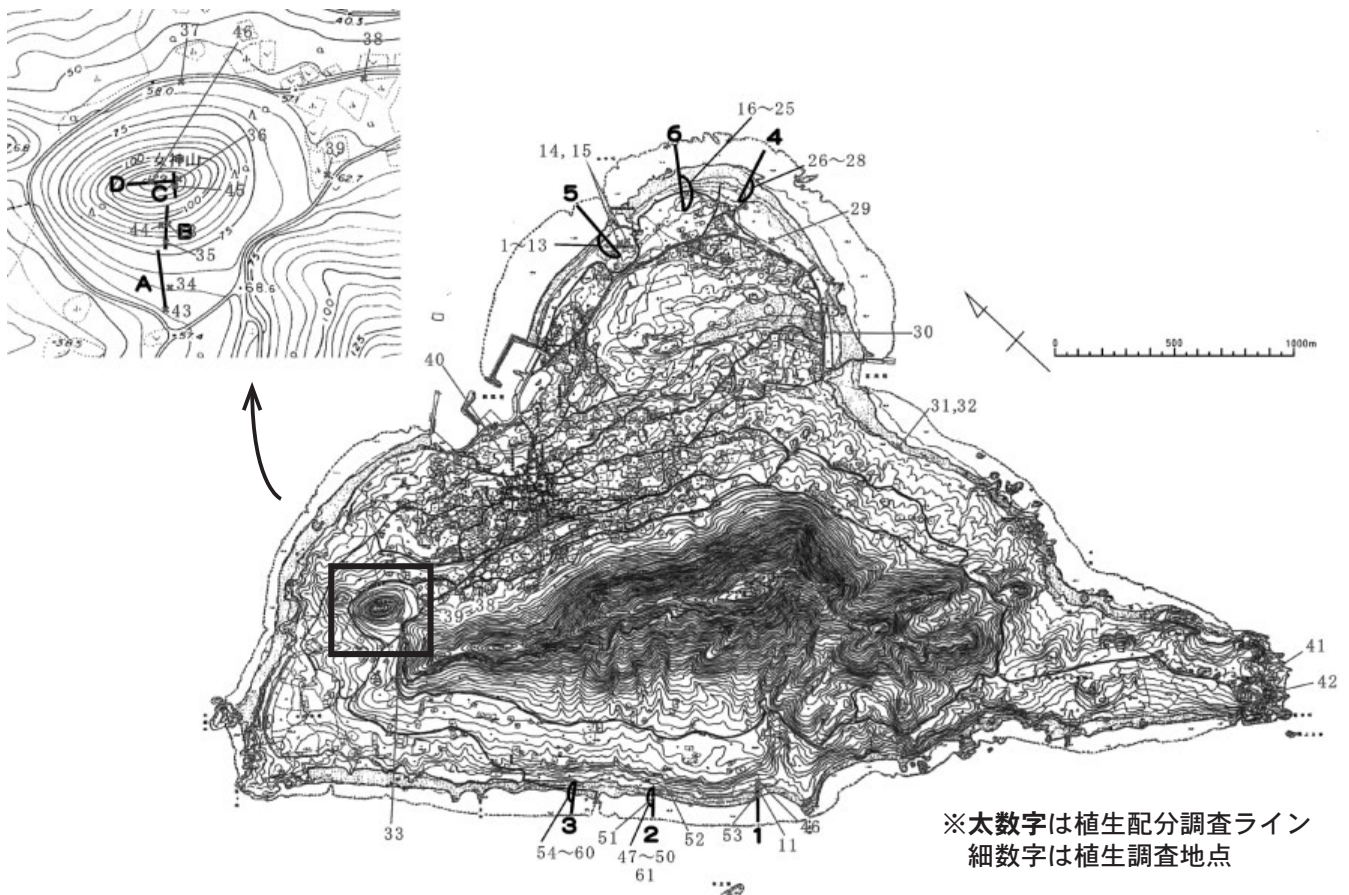


図-2 調査地点

2011年7月10日～12日

女神山植生調査，東海岸植生配分調査

2012年1月6日～7日

女神山・東海岸植生図作成調査

2012年3月4日～3月7日

植物相調査

4 調査結果

(1) 植物群落調査

ア 女神山周辺の森林植生（表-1）

調査地内には森林としてツゲモドキ-ビロウ群落モクレイシ下位単位（モクタチバナ-タブノキ群落），ツゲモドキ-ビロウ群落モクレイシ下位単位（ビロウ群落），サコスゲ-ケウバメガシ群落，ハチジョウシダ-スダジイ群落，リュウキュウマツ群落が認められる。

また，女神山周辺には自然林としてウドノキ-ガジュマル群落，風衝低木林としてアカテツ-ハマビワ群落，ホソバワダン-マルバニッケイ群落，先駆性二次林としてタイワンクス-アカメガシワ群落が分布する。

高木林

- ①-1 ツゲモドキ-ビロウ群落モクレイシ下位単位（モクタチバナ-タブノキ群落）（表-1 調査区番号-34,37,43）（表-2，図-3，4）

女神山の森林群落の中でビロウあるいはタブノキが優占する群落は，種組成で見るとビロウ，ツゲモドキで他群落と区分される。本群落はムサシアブミ，モクレイシ，オキナワテイカカズラを含みタブノキが優占するモクレイシ下位単位と，両種を含まずビロウが優占する典型下位単位に区分できる。

モクレイシ下位単位は，構成種数は18～25種で林冠の高さは10m前後，胸高直径が1mを超える大径木のタブノキが混じる群落で，高木層にタブノキが優占し，モクタチバナ，フカノキ，ツゲモドキ，ヤブニッケイ，ビロウ等の被度が高い。高木層には蔓植物のオキナワテイカカズラ，サツマサンキライ，ビナンカズラなども多く，胸高直径が大きい割に樹高が低いのはトカラ列島を襲う猛烈な台風の強風によってダメージを受けているものと思われる。

亜高木層にはタブノキ，ビロウ，ショウベンノキなどが優占する。低木層にはビロウ，タブノキの被度が高く，草本層は植被率が20～30%と高いが圧倒的にビロウが優占し他植物の被度は小さい。草本層はビロウによって被圧され総じて低植被度である。

本群落（モクタチバナ-タブノキ群落）は宝島に広く分布するが，胸高直径が50cm以上の大径木のタブノキやヤブニッケイ，フカノキ等からなる群落は女神山の下部で主に標高60～75m，傾斜が0～10°程度の平坦地から緩斜面，地質は隆起サンゴ礁の末端部を中心とする。南西諸島では多くの場合，この立地は，耕作等人による改変を受けており，これほど発達したタブ林はきわめて希少な存在である。

- ①-2 ツゲモドキ-ビロウ群落典型下位単位（ビロウ群落）（表-1 調査区番号-35,44）（表-3，図-5，6）

女神山の3合目から8合目までにあたる標高80～100mでは，傾斜が30～60°と急峻な立地となるが，そこに高木層から草本層までビロウが圧倒的に優占する群落が山頂を囲うように覆う。

ビロウが優占するほか，タブノキ，ヤブニッケイ，ツゲモドキ等の被度が高く，亜高木・低木層でもビロウが優占し，モクタチバナ，ショウベンノキ，フカノキ等も常在する。種組成的にはモクタチバナ-タブノキ群落とは大差がないが，ムサシアブミ，モクレイシ，オキナワテイカカズラを含まないことで区分することができる。

群落の高さは11mに達するが林冠はそろわない。ビロウの葉は広くそして分解されにくい低木層，草本層は被陰され，構成種数は16～22種と少なくなる。ビロウによって群落は単純化し，種多様性が貧弱になっているものといえる。高木層のビロウの高さは11m未満で各層に広く分布し，幹の直径は15～20cmのものが多い。

悪石島ネガミ山をはじめ，トカラ列島での聖地の多くはこのビロウが優占する森である。トカラの奇神ホゼがまとう衣装もビロウでつくられ，トカラの信仰とビロウは切り離すことはできない。宝島でもセンゴ港近くの風見権現等の聖地に本群落が成立している。女神山が聖地となっているのはビロウ群落のあったために選抜されたか，ビロウが広がるよう管理されて現在の植生となったか不明ではあるが，女神山のビロウ群落は信仰上の理由により長期間維持されているものと推測される。

なお，ビロウは宝島ではクバとも呼ばれ，葉は帽子や蓑，蠅叩き，団扇等に利用され，また，南国の景観を演出する植物として園芸的に利用され，トカラ列島ではかつては，横当島をはじめ多くの島で利用された。宝島でも昭和30年代に数年間現金収入を得る手段として若葉の採集が行われたが，女神山か

表-1 女神山周辺森林群落組成表

- ①ツゲモドキーピロウ群落 ①-1 モクレイシ下位単位 ①-2 典型下位単位
 ②ハチジョウシダースダジイ群落 ③ウドノキーガジュマル群落 ④サコスゲーケウバメガシ群落
 ⑤ホソバワダン-マルバニッケイ群集 ⑥アカテツ-ハマビワ群集 ⑦リュウキュウマツ群落
 ⑧アカメガシワ-タイワンクス群落

群落番号	①														
	①-1				①-2				②	③	④		⑤	⑥	⑦
調査区番号	37	34	43	35	44	33	40	45	36	42	41	46	38	39	
調査月日 (2011年)	7月11日	7月11日	3月4日	7月11日	3月4日	7月11日	7月12日	3月4日	7月11日	7月12日	7月12日	3月4日	7月11日	7月11日	
標高 (m)	60	65	65	75	75	70	30	120	120	50	50	10	55	60	
方位	NE	SW	SW	SSW	SW	ENE	SW	SSW	SE	W	-	-	-	-	
傾斜 (°)	10	3	5	15	20	3	10	25	35	25	20	0	0	0	
調査面積 (㎡)	20×20	20×20	15×15	20×20	15×20	20×20	15×15	10×15	15×15	15×10	10×10	8×10	20×20	10×10	
高木層 (T1) の高さ (m)	13	15	11	12	11	15	12						12		
高木層 (T1) の植被率 (%)	90	80	90	70	80	90	90						60		
亜高木層 (T2) の高さ (m)	9	7	7	7	6	8	7	6	7			8	8		
亜高木層 (T2) の植被率 (%)	40	60	40	70	40	30	40	80	80			90	50		
低木層 (S) の高さ (m)	3	4	2.5	4.5	2.5	4	3	2	2.5	2	5	2	4	5	
低木層 (S) の植被率 (%)	60	50	30	40	40	50	50	30	20	90	90	40	40	100	
草本層 (H) の高さ (m)	0.5	1	1	1	0.5	1	0.5	1	0.8	0.5	0.5	0.5	0.5	2	
草本層 (H) の植被率 (%)	30	20	30	10	10	50	30	40	50	20	10	40	30	40	
出現種数	25	18	24	16	22	33	24	28	24	21	29	12	33	22	
和名	37	34	43	35	44	33	40	45	36	42	41	46	38	39	
階層															
Livistona subglobosa ピロウ	T1	3・3	2・2	・	4・4	4・4	2・2	2・2	・	・	・	・	・	・	
	T2	2・2	2・2	・	3・3	3・3	1・1	1・1	1・1	1・1	・	・	2・2	・	
	S	4・4	4・4	3・3	3・4	3・4	3・3	2・2	・	1・1	・	・	2・2	・	
	H	・	3・3	・	2・3	1・2	2・3	・	・	・	・	・	+	・	
Drypetes karapinensis ツゲモドキ	T1	・	1・1	1・1	1・1	1・1	・	・	・	・	・	・	・	・	
	T2	・	+・2	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	S	1・1	・	2・2	1・1	1・1	・	・	・	・	・	・	・	・	
	H	・	+	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
Microtropis japonica モクレイシ	S	1・1	1・1	1・1	・	・	+	・	・	+	1・1	・	・	・	
	H	・	・	・	+	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
Arisaema ringens ムサシアブミ	H	・	+	+	・	・	1・1	・	・	・	・	・	+	・	
Trachelospermum asiaticum var. brevisepalum オキナワテイカカズラ	T1	・	・	+	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	T2	・	・	+	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	S	・	・	+	・	・	・	・	・	・	・	・	2・3	2・2	
	H	1・2	1・2	1・2	・	+	1・2	・	・	1・1	・	・	1・2	・	
Castanopsis cuspidata var. sieboldii イタジイ	T1	・	・	・	・	・	4・4	・	・	・	・	・	・	・	
	T2	・	・	・	・	・	1・1	・	・	・	・	・	・	・	
	S	・	・	・	・	・	1・1	・	・	・	・	・	・	・	
	H	・	・	・	・	・	+	・	・	・	・	・	・	・	
Pteris fauriei ハチジョウシダ	T1	・	・	・	・	・	4・4	・	・	・	・	・	・	・	
	T2	・	・	・	・	・	1・1	・	・	・	・	・	・	・	
	S	・	・	・	・	・	1・1	・	・	・	・	・	・	・	
	H	・	・	・	・	・	+	・	・	・	・	・	・	・	
Ficus microcarpa ガジュマル	T1	・	・	・	・	・	4・4	・	・	・	・	・	・	・	
	T2	・	・	・	・	・	1・1	・	・	・	・	・	・	・	
	S	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1・1	・	・	・	
	H	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
Aralia cordata ウドノキ	S	・	・	・	・	・	3・3	・	・	・	・	・	・	・	
	H	・	・	・	・	・	3・3	・	・	・	・	・	・	・	
Mallostus philippensis クスノハガシワ	T2	・	・	・	・	・	3・3	・	・	・	・	・	・	・	
	S	・	・	・	・	・	2・2	・	・	・	・	・	・	・	
Crataeva falcata ギョボク	T2	・	・	・	・	・	1・1	・	・	・	・	・	・	・	
	H	・	・	・	・	・	+	・	・	・	・	・	・	・	
Alocasia odora クワズイモ	T2	・	・	・	・	・	+	・	・	・	・	・	・	・	
	H	・	・	・	・	・	+	・	・	・	・	・	・	・	
Quercus phillyraeoides var. wrightii ケウバメガシ	T2	・	・	・	・	・	5・4	5・4	・	・	・	・	・	・	
	S	・	・	・	・	・	2・2	2・2	・	・	・	・	・	・	
Pittosporum tobira トベラ	T2	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1・1	・	
	S	・	・	・	・	・	1・1	2・2	・	・	・	・	・	・	
	H	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	+	・	
	H	・	・	・	・	・	・	・	+	・	・	・	・	・	
Vaccinium bracteatum シャシャンボ	S	・	・	・	・	・	1・1	・	・	・	・	・	・	・	
	H	・	・	・	・	・	・	+	・	・	・	・	・	・	
Elaeagnus macrophylla マルバグミ	S	・	・	・	・	・	+	+	・	・	・	・	・	・	
	H	・	・	・	・	・	2・2	1・2	・	・	・	・	・	・	
Ophiopogon jaburan ノシラン	H	・	・	・	・	・	+・2	+・2	・	・	・	・	・	・	
Sedum formosanum シママンネングサ	H	・	・	・	・	・	2・3	3・4	・	・	・	・	・	・	
Carex saxonis T.koyama サコスゲ	H	・	・	・	・	・	1・2	1・2	・	・	・	・	・	・	
Lemmaphyllum microphyllum マメツタ	H	・	・	・	・	・	1・1	1・2	・	・	・	・	・	・	
Rhododendron eriocarpum マルバサツキ	S	・	・	・	・	・	・	1・1	・	・	・	・	・	・	
Hoya carnosa サクラン	T2	・	・	・	・	・	・	1・1	・	・	・	・	・	・	
	S	・	・	・	・	・	・	+	+	・	・	・	・	・	
Peperomia japonica サダソウ	H	・	・	・	・	・	+・2	+	・	・	・	・	・	・	
	H	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
Cinnamomum daphnoides マルバニッケイ	S	・	・	・	・	・	・	・	・	・	4・4	2・2	・	・	
	H	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	+	・	・	
Ligustrum japonicum var. spathulatum イワキ	S	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1・1	2・2	・	・	
	S	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1・1	1・2	・	・	
Korthalsella opuntia ヒノキバヤドリギ	S	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
	S	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
Miscanthus condensatus ハチジョウススキ	H	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1・1	+	・	・	
	H	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2・3	2・3	・	・	
Tylophora tanakae ツルモウリンカ	H	・	・	・	・	・	・	・	・	・	+	+	・	・	
	H	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

Rhaphiolepis umbellata	トベラ群団識別種 シャリンバイ	S	1・1	1・1	2・2	4・4	.	1・1	.
Luisia teres	ボウラン	H	+
		T2	2・3
		S
		H
Psychotria serpens	シラタマカズラ	S	1・2	2・2	+	+・2	.	.
		S	+・2	+
		H	1・2	1・2	1・2	1・2	.	+
Dianella ensifolia	キキョウラン	H	2・2	1・1	+	+	.	.
Planchonella obovata	アカテツ	T2	4・4	.
		S	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	.
		H	+	+	+	.	.
Litsea japonica	ハマビワ	S	1・1	.
		H
Pinus lutchuensis	リュウキュウマツ群落区分種 リュウキュウマツ	T1	1・1
		T2	1・1
		S	+	1・1
		H
Cycas revoluta	ソテツ	S
		H
Nephrolepis auriculata	タマシダ	H
		H
Mallotus japonicus	アカメガシワ	S
		H	+
Pueraria montana	タイワンクス	S
		H	+
Alpinia intermedia	ボチョウジ - スダジイ 群団種	H	2・3	2・2	3・3	2・2	1・2	3・4	1・2	2・3	2・3
Ardisia sieboldii	アオノクマタケラン モクダチバナ	T1	.	.	1・1
		T2	2・2	3・3	.	2・2	1・1	2・2	1・1
		S	.	.	1・1	.	1・1	1・2	1・1
		H	.	.	.	+	2・2
Schefflera octophylla	フカノキ	T1	.	.	2・2	.	2・2
		T2	2・2	2・2	2・2	2・2	1・1
		S	1・1	.	1・1	.	1・1	1・1	2・3	.
		H	1・2
Psychotria manillensis	ナガミボチョウジ	S	2・2	+	1・1	1・1	1・2	1・1	.
		H	.	.	1・1	+	.	1・2	2・2
Smilax bracteata	サツマサンキライ	T1	.	+
		T2	.	+	+
		S	1・1	+	.	.	.	+	1・1	2・2
		H	+	1・1
Turpinia ternata	ショウベンノキ	T2	.	.	.	2・2	1・1
		S	1・1	1・1	1・2	.
		H	.	+	.	.	.	+	1・1
Tarenna gracilipes	ギョクシンカ	S	1・1	.	1・2	+	1・2	1・1
Piper kadsura	フウトウカズラ	T1
		T2
		S	+
		H	1・2	+・2	1・2	.	+	2・3	2・3	2・3	1・2	3・3
Machilus thunbergii	ヤブツバククラス種 タブノキ	T1	4・4	4・4	4・4	2・2	2・2	2・2	2・2	.
		T2	.	.	2・2	.	.	.	1・1	3・3	.
		S	2・2	1・1	.	.
		H	+	.	.
Cinnamomum japonicum	ヤブニッケイ	T1	.	1・1	2・2	1・1
		T2	2・2	2・2	1・1	.	1・1	1・1
		S	.	1・1	1・2	1・1	.	1・1	1・1	1・1	.	1・2
		H	.	.	.	+	+	.	.
Gardenia jasminoides	クチナシ	T2	1・1
		S	1・2	1・1
		H	+
Ilex integra	モチノキ	S	+	+
Kadsura japonica	ビナンカズラ	T1	.	.	+	+	+
		T2	.	.	.	+
		S	.	.	.	+
		H	+	+
Symplocos lucida	クロキ	S	+	.	1・1
Daphniphyllum teijsmannii	ヒメユズリハ	S	+	.	1・1	1・1	.	.	.
		H	+
Cocculus laurifolius	コウシュウウヤク	S	3・3	.
		H	+	.
Hedera rhombea	キツタ	H	+	.
Anodendron affine	サカキカズラ	T1	.	+
Podocarpus macrophyllus	イヌマキ	T2	1・1
		S	1・1
Pleiolblastus linearis	その他の種 リュウキュウウチク	T2	.	.	.	1・1
		S	.	1・1	+	+	.	1・1	.	1・2	.	1・1	1・1	1・2	1・2	2・2
Heterosmilax japonica	カラスキバサンキライ	T1	1・1	1・2	.	.	.	+
		T2	.	+	+	.	.	+
		S	.	+	.	.	.	+	1・2	.	.
		H	+	+	+	.	.	1・2	.	.	.	+	.	.	+	+
Paederia scandens	ヘクソカズラ	T1	.	.	+
		S	.	+	+	.	.

表-2 ツゲモドキ-ビロウ群落(タブ林) 毎木調査票

	位置	種名	高さ	胸高直径	備考
1	0	タブノキ	6.4	20.6	
2	0.5	イヌビワ	3.3	3.0	
3	3.1	タブノキ	6.8	9.3	
4	3.8	タブノキ	6.8	7.8	
5	8.8	タブノキ	9.5	19.0	
6	10.3	ビロウ	2.4	13.8	
7	10.6	クズ	5.0	3.3	
8	14.6	モクタチバナ	6.0	16.0	
9	14.5	ビロウ	2.2	24.0	
10	13	タブノキ	5.8	14.5	
11	17	モクタチバナ	5.0	6.2	
12	18.8	タブノキ	9.6	70.0	
13	19.5	フカノキ	7.0	10.3	
14	20.4	モクタチバナ	10.0	24.6	
15	21.8	ビロウ	2.8	18.5	
16	22.5	タブノキ	4.0	5.0	
17	22.8	タブノキ	5.4	6.0	
18	25	タブノキ	4.0	3.4	
19	26.3	ショウベンノキ	5.4	6.3	
20	26.7	フカノキ	4.0	9.0	

	位置	種名	高さ	胸高直径	備考
21	26.8	ビロウ	5.4	18.8	
22	30	ヤブニッケイ	6.8	19.4	
23	30	ヤブニッケイ	3.4	18.7	
24	30	ヤブニッケイ	9.4	6.2	
25	31.2	ツゲモドキ	7.0	9.5	
26	31.3	タブノキ	3.8	11.3	
27	33.2	ビロウ	2.8	17.0	
28	34.8	ビロウ	4.0	22.0	
29	35.3	オオクサボク	4.4	5.0	
30	36.3	ビロウ	6.8	38.0	
31	38	タブノキ	9.0	117.0	0.5mで3本
32	38.1	タブノキ	7.0	13.2	
33	40	フカノキ	10.0	13.2	
34	43	モクタチバナ	8.0	11.6	
35	43	モクタチバナ	9.8	19.0	
36	43.2	タブノキ	6.0	6.6	
37	45.1	ヤブニッケイ	8.8	23.0	
38	45.7	フカノキ	7.6	26.2	
39	44.8	ヤブニッケイ	7.4	18.8	
40	47.6	ツゲモドキ	9.4	29.1	
41	49	ビロウ	3.2	12.4	

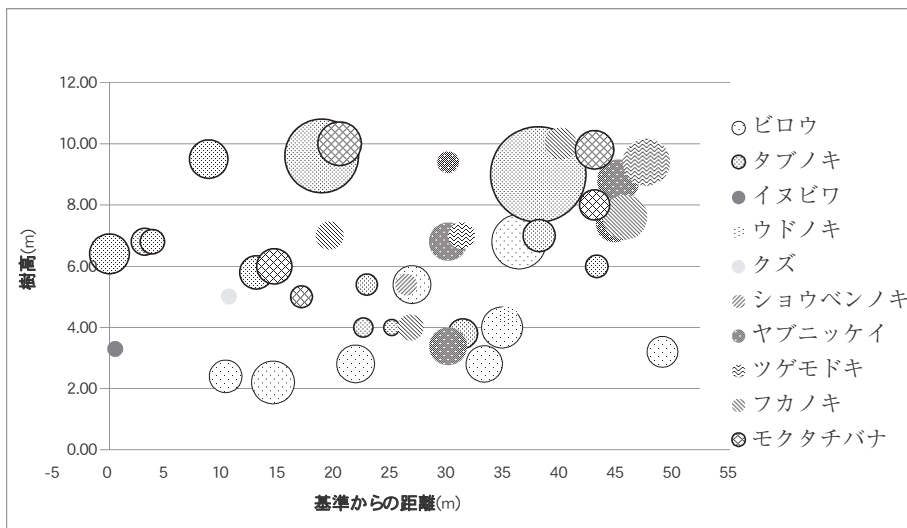


図-3 ツゲモドキ-ビロウ群落(タブ林) 群落構造図



図-4 ツゲモドキ-ビロウ群落(タブ林) 群落断面模式図



写真-3 タブノキの巨木が混じるツゲモドキ-ビロウ群落

表-3 ツゲモドキ-ビロウ群落(ビロウ林) 毎木調査票

	位置	種名	高さ	胸高直径	備考
1	0	アコウ	9.6	82.7	
2	2	タブノキ	10.0	25.1	
3	4.7	ビロウ	8.4	17.0	
4	6.3	ビロウ	4.6	17.0	
5	6.7	ビロウ	5.8	15.0	
6	7.3	ビロウ	9.6	19.5	
7	9.8	ビロウ	9.6	21.5	
8	11.6	ショウベンノキ	6.2	10.5	
9	10.9	ビロウ	6.0	15.8	
10	13.9	ビロウ	11.0	21.5	
11	14.5	ビロウ	5.2	14.4	
12	17.6	ヤブニッケイ	9.8	21.5	
13	17.6	ヤブニッケイ	6.6	5.5	
14	17.1	ビロウ	5.8	18.2	
15	17.8	ビロウ	10.4	22.5	
16	19.9	ビロウ	5.6	14.8	
17	21.1	ビロウ	8.4	18.5	
18	21.9	フカノキ	6.8	25.0	
19	24.2	タブノキ	6.6	8.0	
20	23.8	ツゲモドキ	6.4	10.0	
21	24.8	タブノキ	7.1	23.0	
22	24.9	タブノキ	8.2	42.3	
23	26.3	ビロウ	4.4	17.0	
24	26.8	ビロウ	7.6	18.3	
25	27.7	フカノキ	3.5	7.3	

	位置	種名	高さ	胸高直径	備考
26	29.1	ショウベンノキ	7.8	11.0	
27	30.2	タブノキ	9.4	43.3	
28	30.6	ビロウ	2.2	12.1	
29	32.3	ヤブニッケイ	5.2	6.1	
30	33.1	ヤブニッケイ	6.8	12.0	
31	32.8	ビロウ	5.8	17.9	
32	33.3	ハマイヌビワ	6.8	10.7	
33	34.2	ビロウ	9.0	18.1	
34	35.2	ビロウ	4.6	16.1	
35	36.4	ビロウ	2.2	16.0	
36	39	モクタチバナ	6.0	14.0	
37	39.8	モクタチバナ	5.8	8.0	
38	40.7	ビロウ	6.8	18.0	
39	41.8	ビロウ	9.2	20.0	
40	43.6	ショウベンノキ	4.0	6.1	
41	44.4	ビロウ	9.8	20.6	
42	45.8	ショウベンノキ	4.0	6.6	
43	44.6	フカノキ	5.8	29.3	
44	46.8	モクタチバナ	5.0	10.2	
45	47.5	フカノキ	2.4	4.4	
46	48.8	モクタチバナ	3.0	5.7	
47	49	ビロウ	6.2	20.6	
48	49.1	フカノキ	6.8	17.7	
49	49.8	モクタチバナ	4.0	7.7	根際2本
50	50	モクタチバナ	3.8	4.5	

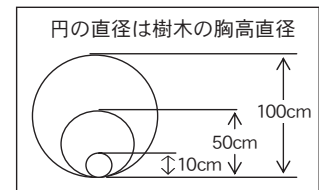
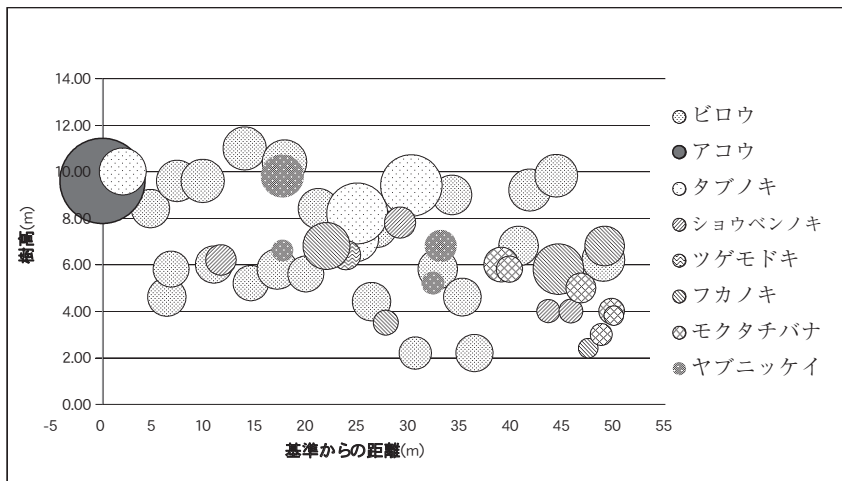


図-5 ツゲモドキ-ビロウ群落(ビロウ林) 群落構造図

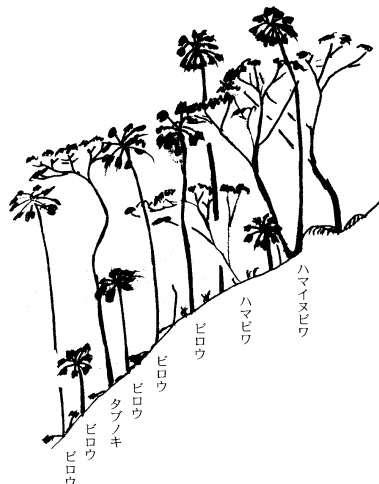


図-6 ツゲモドキ-ビロウ群落(ビロウ林) 群落模式図



写真-4 ビロウが優占するツゲモドキ-ビロウ群落

らも伐採することなく若葉だけを採集したと伝えられている。いずれにしろ、女神山のビロウ群落はトカラ列島域の自然を代表する群落である。

② ハチジョウシダースダジイ群落 (表-1 調査区番号-33)

宝島集落より大瀬海岸に抜ける道路で女神山とイマキラ岳の鞍部に当たる位置に「女神権現跡」の碑がある。この碑の周辺は一部石垣で囲まれており、ここにスダジイが優占する植分がある。スダジイが10数本あり、その多くは根元から数本に分枝している。分枝した株の胸高直径は60～90cmの大径木で、樹齢は150年を超えていると推定される。大径木として胸高直径が120cm前後のリウキュウマツもあり、スダジイとともに石積みの上に生育しているので石積みの歴史がわかる。

本群落は高木層にスダジイが被度4で優占し、タブノキ、リウキュウマツ、ビロウなどが混在する。亜高木層、低木層はビロウ、ヤブニッケイ、モクタチバナの被度が高く、草本層はアオノクマタケラン、フウトウカズラでびっしりと覆われている。

種組成的にはスダジイ、ハチジョウシダをのぞいて、ツゲモドキービロウ群落と同質で、ツゲモドキービロウ群落にスダジイが進出したものと推定される。群落の規模は20～25m四方程度である。また、スダジイの低木は大径木から萌芽したもので亜高木層、低木層、草本層に単木のスダジイを数本しか確認できない。

大野(1986)によると、イマキラ岳の尾根部にも貧弱ではあるがスダジイ林があることから、女神山のスダジイ林は自生か植栽かは不明だが、管理されたきたものと推定される。トカラ列島や大隅、薩南諸島ではシイは正月の門松として使われてきた例が随所にあり、神聖な、汚れのない祭場をつくるため植えられ、管理され、その後放置された群落といえる。

③ ウドノキーガジュマル群落 (表-1 調査区番号-40)

本群落は女神山の集落側麓の隆起サンゴ礁が裸出する岩上地や宝島集落はずれにある六郎神社の社叢で確認された。

植生調査を行った植分は、六郎神社の社叢で、多数の太い気根を湧水地に垂らしたガジュマルが優占し、リウキュウエノキ、クスノハガシワの被度が高く、ウドノキが低木層に繁茂する。ウドノキ、ク

スノハガシワ、ギョボク、クワズイモ等石灰岩地に特有な種組成の群落で宝島を北限とする群落といえる。

風衝低木林

④ サコスゲ-ケウバメガシ群落 (表-1 調査区番号-36,45) (表-4, 5, 図-7, 8, 9,10)

標高100m～山頂付近には、女神山に濃い緑の帽子をすっぽりとかぶせたように本群落が分布する。北東から南西に向かって幅70m、北西から南東に向かって長さ110m前後の連続した群落である。表-4, 図-7は幅に沿って、表-5, 図-9は長さに沿っての毎木調査結果である。

樹冠の高さは3～7mで、林冠は密閉されないため林床は明るい。最上層の亜高木あるいは低木層にケウバメガシが被度4から5で優占するが、最上層には他にリウキュウマツやビロウが点在している。

山頂付近は湿度が高いためケウバメガシの樹幹にはボウランがびっしりと着生し、ノキシノブ、サクララン、マメヅタも付着している。(かつてはナゴランも相当数付着していたと言われている)また、岩上にもボウランがびっしり生え、ボウランの群落をつくっている。本群落中にはボウランのほかリュウキュウクロウメモドキやヒロハネム、サコスゲ、マルバサツキなどの絶滅危惧植物も随所で見られ、植物のホットスポットの一つともいえる。

本群落は他の風衝低木林とは異なり、最上層は密閉されず空隙が目立つ群落である。また、林床は表土も薄く堆積岩が細かく割れたところと、岩盤が裸出したところがあり、堆積岩の岩隙にケウバメガシの根が食い込んでいる。急斜面上では植被は少ないが、緩斜面の明るいところではキキョウランやウバメガシの幼苗が密に生育する。

北東から南西に向かって図-9のように群落の中心部にはケウバメガシ以外の樹木は少なく、風衝面にはリュウキュウクロウメモドキや、シャリンバイ、シャシャンボなどの風衝低木林の構成種が繁茂している。

種組成的にはケウバメガシ、トベラ、シャシャンボ、マルバグミ、ノシラン、シママンネングサ、サコスゲ、マメヅタ、マルバサツキ、サクララン、サダソウで他の森林群落とは区分されるが、トカラ要素のマルバサツキを含み、マメヅタ、ボウラン、サクララン、シママンネングサ、サダソウ、イワヒバ等乾湿の差が大きく貧栄養な立地に生育できる植物が中心となる群落である。

表-4 サコスゲーケウバメガシ群落（横断面）毎木調査票

	位置	種名	高さ	胸高直径	備考
1	0	ケウバメガシ	3.6	11.6	
2	0	リュウキュウクロウメトギ	3.0	4.1	
3	1.5	シャシャンボ	3.0	5.9	
4	2.4	シャリンバイ	2.4	5.0	
5	4.2	ケウバメガシ	1.6	10.2	根際5本立ち 内3本
6	4.2	ケウバメガシ	3.6	11.5	
7	6.9	ケウバメガシ	4.0	10.6	5本立0.5M
8	10	ケウバメガシ	3.2	8.6	5本分枝根際
9	10	ケウバメガシ	3.4	14.6	
10	10	ケウバメガシ	5.6	12.9	
11	10.1	シャシャンボ	3.6	6.4	2本分枝
12	13	ケウバメガシ	3.6	8.7	7本分枝0.5Mで
13	13	ケウバメガシ	4.0	11.6	
14	13	ケウバメガシ	5.0	40.0	
15	13	ケウバメガシ	3.8	8.6	
16	13	ケウバメガシ	4.8	13.6	3本分枝0.3Mで
17	13	ケウバメガシ	6.2	16.2	
18	18.2	ケウバメガシ	1.2	4.3	3本分枝0.5Mで
19	18.2	ケウバメガシ	3.8	6.0	
20	18.2	ケウバメガシ	5.0	36.0	
21	21.8	リュウキュウクロウメトギ	3.0	7.1	
22	23	シャリンバイ	1.4	6.5	
23	24	ケウバメガシ	3.4	15.0	根際で2本3本立ち
24	24	ケウバメガシ	3.4	11.5	
	28	急崖地になる			

表-5 サコスゲーケウバメガシ群落（縦断面）毎木調査票

	位置	種名	高さ	胸高直径	備考
1	0	ケウバメガシ	3.8	15.0	
2	0.6	ケウバメガシ	4.8	14.3	
3	1.7	ケウバメガシ	4.6	16.9	
4	0.3	ケウバメガシ	4.8	25.3	
5	7.6	ケウバメガシ	5.6	50.5	50cmで5本分 枝根際は2.35m
6	8	ケウバメガシ	5.6	18.0	
7	9.5	ケウバメガシ	5.2	20.8	
8	9.5	ケウバメガシ	4.8	19.6	
9	10.8	ケウバメガシ	2.4	15.0	
10	19.5	ケウバメガシ	6.0	62.0	4本分枝
11	19.5	ケウバメガシ	5.8	22.4	
12	21	ケウバメガシ	4.4	9.5	6本分枝
13	21	ケウバメガシ	4.8	24.8	
14	21	ケウバメガシ	4.6	41.8	
15	22	ケウバメガシ	4.0	9.2	
16	24	ケウバメガシ	2.6	18.0	4本分枝
17	24	ケウバメガシ	2.8	9.5	
18	27.8	ケウバメガシ	2.8	28.5	
19	30そ の後 5m	ケウバメガシ	3.0	11.0	
20		急崖地			

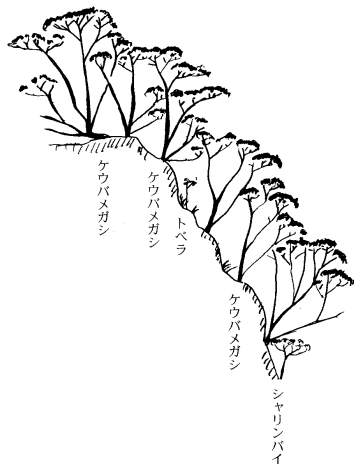


図-7 サコスゲーケウバメガシ群落断面模式図（横断面）

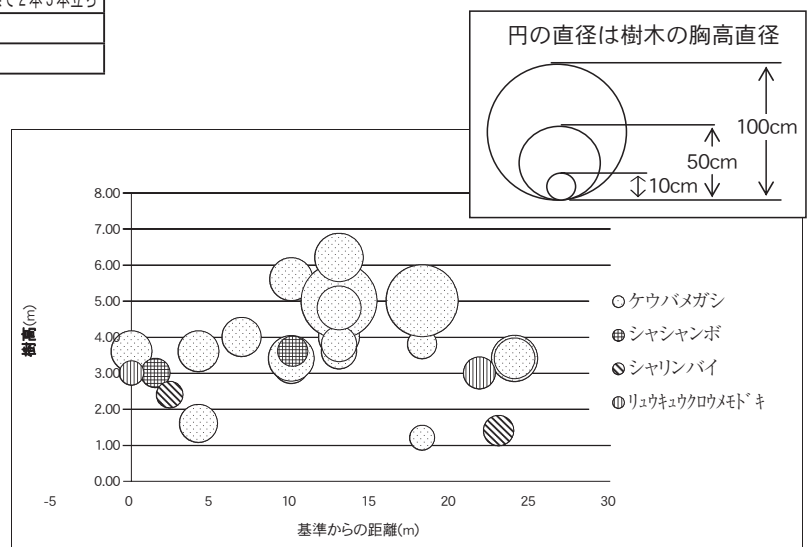


図-8 サコスゲーケウバメガシ群落構造図（横断面）

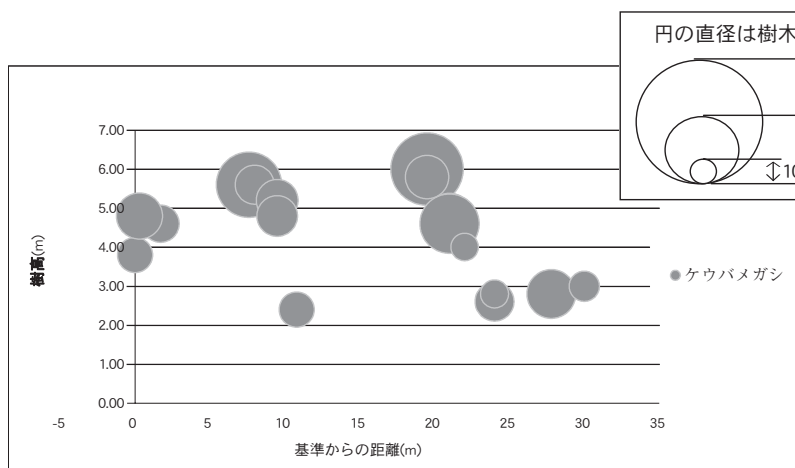


図-10 サコスゲーケウバメガシ群落構造図（縦断面）

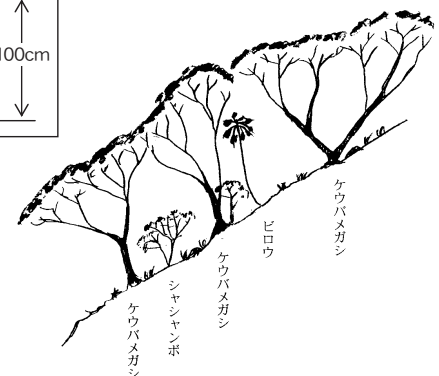


図-9 サコスゲーケウバメガシ群落断面模式図（縦断面）

ケウバメガシは根際あるいは地上30～70cm前後で5～7本に分枝しているが、根際の直径が80cm前後のものや分枝した樹木には胸高直径が50～70cmあるものもあり、成長の遅いケウバメガシとしては巨木の森といえる。樹木は山頂部にあり台風等の強い影響を受けているため垂直方向へは成長できず、倒伏しやすい。低木層や林床にはケウバメガシの被度も高い。また、成長が遅く萌芽しやすいケウバメガシが根際でなく地上60～70cmで分枝していることからすれば、伐採ではなく、萌芽更新によって分枝した自然林と考えられる。

ウバメガシは硬葉樹の一つといわれ、乾燥、貧栄養、潮風に耐性があり、分布は特異的である。鹿児島県内では海岸部の風衝地に分布することが知られ、甞島の礫州上や薩摩半島南端、大隅半島南部の佐多種子島、屋久島の海岸部に分布するが、隣接するトカラ列島では南端部の宝島の女神山だけに分布し、鹿児島県では南限の群落となっている。沖縄県では北部の伊是名島、伊平屋島のヒトツバーウバメガシ群落 distributes し、日本南限の群落となっている。重力分散とされ、ネズミやカケスなどの動物運搬によっても種子分散が行われるともいわれるが、屋久島や沖縄から遠く離れて宝島女神山山頂付近に分布している理由は不明であり、今後遺伝子解析等の研究が期待される。

※なお女神山の山頂部は渡り鳥の休憩地でその鳥をねらってトカラハブが多数生息している

⑤ ホソバワダン-マルバニッケイ群集 (調査区番号-41, 42)

荒木崎や女神山に続く大瀬崎、鷺が崎の岩上地にはマルバニッケイ、イワキ、ヒノキバヤドリギ、ハチジョウススキ、サコスゲ、ヒゲスゲ、ツルモウリンカ、ホソバワダンを区分種にもつホソバワダン-マルバニッケイ群集が発達する。海岸から低茎のアダン群集に続き、マルバニッケイが被度3から4で優占する群落でトベラ群団識別種のシャリンバイ、ボウラン、シラタマカズラ、キキョウラン等の被度が高い。立地はやや乾燥した緑色凝灰岩の岩角地の斜面で、岩の間に根を張り、アカテツ-ハマビワ群集の前面に隣接する。

本群落は砂丘地でもトベラ、ホソバワダンなどとともに群落をつくり、東海岸付近では普通に見られる。

マルバニッケイは九州西海岸や大隅半島から沖縄県硫黄島まで分布するが、濃い密度で分布するの

はトカラ列島であり、ホソバワダン-マルバニッケイ群集はトカラ列島を分布の中心として、各島の海岸部を同心円状に取り囲むように分布する。

⑥ アカテツ-ハマビワ群集 (調査区番号-46)

海岸砂丘地と陸地斜面との比較的安定した砂地から隆起サンゴ礁の岩角地に、アカテツが優占する低木林から亜高木林が発達する。他の森林群落とはハマビワ、アカテツで区分される。群落の高さは10m前後で最上層の亜高木層にアカテツ、ビロウ、リュウキュウエノキの被度が高く、低木・草本層にはビロウ、コウシュウヤク、フウトウカズラ等の被度が高い。群落中のアカテツには樹高10.8m、胸高直径は61cm、板根が発達したものもある。

林床にはビロウの落葉やリュウキュウエノキ等の落枝が堆積し、地表との間には殻高5～8cmの貝殻に居着いた大型のオカヤドカリも多数棲息している。

アカテツは悪石島を北限とする植物で、当地の群落は北限域の群落にあたり、西部海岸を中心に分布するが、八幡神社付近の群落は特に発達している。

⑦ リュウキュウマツ群落 (調査区番号-38)

女神山の外周道路の内側で耕作地と隣接する位置や外周道路の外側に、リュウキュウマツが優占する林分がある。いずれもかつての耕作地周辺でリュウキュウマツが植栽されたか、自生のものか判別できない。高木層にリュウキュウマツが優占し、タブノキ、シマグワ、ハゼノキ等の被度が高い。かつて植栽されていたソテツ、イヌマキ等も残存するが、ソテツの大株は衰退しており、幼苗が散在している。リュウキュウマツ、ソテツ、タマシダ等で他の群落からは区分される。

リュウキュウマツの胸高直径は太く、高木層のタブノキも十分に成長しており、組成的にはツゲモドキ-ビロウ群落と同様で、リュウキュウマツが枯れるとタブ林に推移することが確かな群落である。

⑧ アカメガシワ-タイワンクス群落 (調査区番号-39)

女神山の外周道路の内側で耕作地と隣接する位置や外周道路の外側に、先駆性のアカメガシワ、イヌビワ、シマグワなどの樹木を蔓植物のタイワンクス、ノアサガオ、ハスノハカズラ、アマチャヅルなどが覆う。草本層にはフウトウカズラ、アオノクマタケラン、ホシダなどの被度が高い。畑放棄地に侵入した群落である。

イ 海岸部の群落・砂地植生

隆起サンゴ礁上植生（表－6）

⑨ イソフサギ群落及び ⑩ イソマツ群落（調査区番号－1, 2, 54, 55）

西海岸・東海岸ともに隆起サンゴ礁で、植生が生え始める最前線にイソマツ及びイソフサギが隆起サンゴ礁の凹みに小塊状になって生える。満潮時には波が押し寄せる厳しい環境であるため規模は小さく、植被率も5～30%の空隙の目立つ群落である。なおイソマツは、絶滅危惧Ⅱ類（VU）（環境省レッドリスト）に分類されている。

⑪ ソナレムグラ－コウライシバ群落（調査区番号－3, 4, 5, 7, 12, 14, 15, 16, 17, 18, 20, 21, 24, 25, 26, 27, 47, 56, 57, 58, 62）

隆起サンゴ礁上で平常時には海水をかぶることはないが、高潮時に海水をかぶる立地に成立する群落で、一般にコウライシバが優占する。本群落はコウライシバ、ソナレムグラ、グンバイヒルガオ、ボタンボウフウを標徴種・区分種とするが、ホソバワダン、コマツヨイグサ、シマアザミ、シロバナミヤコグサを区分種として、これらの種を含むホソバワダン亜群落と含まない典型亜群落に下位単位区分される。

典型亜群落は、表土がほとんどなく高波によって洗われる可能性の高い隆起サンゴ礁上に成立し、構成種に乏しい群落である。

ホソバワダン亜群落はさらにクロイワザサ、ハマボウフウを含むクロイワザサ変群落、それらを含まない典型変群落に下位単位区分される。典型変群落は高波がかぶることがある砂の被覆のない隆起サンゴ礁上やサンゴ礁が破壊され折れた枝サンゴなどの破片が目立つサンゴ砂、礫上に群落をつくる。

クロイワザサ変群落はさらにテッポウユリ、ヒゲスゲ、アマミヒトツバハギ、ハマダイコンを区分種にもつテッポウユリ亜変群落、テリハノイバラの被度の高いテリハノイバラ群落、コゴメマンネングサ、ヒメキランソウ、ハマタイゲキを区分種にもつハマタイゲキ亜変群落及びそれらの区分種を含まない典型亜変群落に下位単位区分される。

このうちテッポウユリ亜変群落はソナレムグラ－コウライシバ群落の中では最も内陸部にあり、砂質地で湿潤、有機質に富む富栄養な立地に成立する。テリハノイバラファチスはテッポウユリ亜群落、テッポウユリ－オキナワハイネズ群落に隣接し、テリハノイバラがびっしりと地表を覆う。ハマタイゲ

キ亜変群落は、ホソバワダン亜群落典型群落を海側にテッポウユリ亜群落を内陸側にして、はさまれるように成立し、サンゴ砂が細かくなり、乾燥した立地に成立する。植被率は30～40%と低く、サンゴ砂が目立つ群落である。

典型亜変群落はシロバナミヤコグサ、ハマオモト、ホソバワダン等が優占しやや粒子の荒いサンゴ砂上で乾燥した立地に成立する。

砂丘地植生（表－6）

⑫ コオニシバ群落（調査区番号－59）

西海岸では砂丘の植生帯の先端部で小さな粒子のサンゴ砂が堆積した立地にコオニシバが優占する低茎の群落が散在する。群落は高さ0.1m、植被率30%前後、随伴種も2種と少なく空隙の目立つ群落である。

⑬ オキナワハイネズ群落（調査区番号－10, 13）

オキナワハイネズはヒノキ科の匍匐性矮性低木で、宇治群島以南の南西諸島の主に砂丘地に分布する。乾燥にも強く、また強烈な日照にも耐性がある。葉や幹に精油成分を含み香気があるため宝島では白檀と呼ばれ、その枝の先端25cm程度を切って、毎月15日、30日の日にお墓にいける風習が現在も続いている。本群落は一次砂丘地の内陸側や二次砂丘地にオキナワハイネズがびっしりとカーペット状に広がる。群落の規模は砂丘植生としては大きく30m四方を超えるものもあり、オキナワハイネズ群落としては日本で最大級の群落ともいえる。草本層にツキイゲ、テッポウユリ、リュウキュウヨモギが常在し、ほとんど海水が冠水しない内陸側の砂丘で、砂丘地としては湿潤、有機質に富む。

絶えず海風が吹き付けている海岸砂丘地あるいは岩礁にも成立する群落で、ハマボウフウ－ツキイゲ群落と拮抗しながら成立している。

⑭ ハマボウフウ－ツキイゲ群落（調査区番号－11, 23, 28, 29, 49）

宝島ではツキイゲ、リュウキュウヨモギ、スナヅルが区分種となり、ツキイゲあるいはリュウキュウヨモギがびっしりと被度4から5で砂丘を覆う群落である。構成種数は6～11種でハマボウフウやヘクソカズラの常在度が高い。砂丘での植生配分としては海側をソナレムグラ－コウライシバ群落、内陸側をモンパノキークサトベラ群落に接するが、発達したソナレムグラ－コウライシバ群落内の窪地やモ

ンパノキークサトベラ群集の前面にオキナワハイネズ群落を介することもあり、匍匐性の低木林と同位置に群落を形成する。群落の規模は2m四方の小規模なものから50m程度に連続する砂丘植生としては巨大な群落までである。群落の分布は種子島以南であるが、鹿児島県内や沖縄県においては、砂丘地の開発だけでなく海岸侵食によっても破壊されており、この規模で現存しているところは宝島以外少ない。

ツキイゲの葉は厚く鋭くとがり、淡青緑色で、海岸植生の多くが濃緑色である中で目立つ群落である。また、球状の花穂は成熟すると花茎から離脱し、風に吹かれて転がりながら分解し、分散する特異な形態をもつ。

なお、区分種となるリュウキュウヨモギは株立ちしびっしりとまとまって生える（リュウキュウヨモギ群落）こともあり、またその根茎に、ヨモギ属に寄生するハマウツボも点在する。

⑮ クロイワザサーハマゴウ群集（調査区番号-48, 52）

砂丘地ではモンパノキークサトベラ群集の前面に、ハマゴウが優占する匍匐性の低木林が成立する。群落はハマゴウ、クロイワザサが高い被度を占めることが多いが、宝島では海岸侵食によってかなりダメージを受け被度も低い。この中にはタイトコメが優占したり、ハマボウフウ、シロバナミヤコグサが優占したりする植分も見られる。

本群落は小丘状になった二次砂丘の頂上面にハマボウフウーツキイゲ群集に囲まれるように、テリハツルウメモドキやアマミヒトツバハギなどの低木種とともにパッチ状になって成立している。

⑯ ハマナタマメ群落（調査区番号-32）

ハマナタマメは、本州（太平洋側は千葉県以西、日本海側は山形県以西）から四国、九州、南西諸島、小笠原諸島に分布する蔓性の多年草で、主に熱帯から亜熱帯の海岸に生育する。本群落はハマナタマメが草本層あるいは低木層を被覆し優占する群落で、海岸砂丘地、岩礁地の袖群落として、植生帯の最先端からクロイワザサーハマゴウ群集、オオハマボウ群落の立地までの分布域がある。随伴する種は立地により異なる。

⑰ ハウチワノキ群落（調査区番号-30）

ハウチワノキは砂丘地に生える1.5m程度の低木で、宝島を北限とするムクロジ科の植物である。本群落

はハウチワノキが低木層を優占するが空隙が目立つ。本群落が確認できたのはセンゴ港の北方向の道路辺である。かつては潮風が強く当たっていたが、海岸と群落との間にモクマオウが植栽されたため、環境が緩和され、ノアサガオやタイワンクズ、スナヅル等の蔓植物が被覆し群落の活力度が低下している。

※ ハイキビ群落

ハイキビは南方系のイネ科植物で、湿地ややや湿潤な立地にハイキビが優占する群落を形成する。

本群落は、大金久海岸では南側に位置する砂丘地のハマボウフウーツキイゲ群集に囲まれたやや湿潤な立地で高さ30cm程になる。ツルボやリュウキュウヨモギ、ハマヒルガオやハマダイコンなどの種を含む。隣接してツルボが被度5でびっしりと生え、ノビルを含む5m四方程度の群落も確認されている。

熱帯海岸林（表-7）

⑱ モンパノキークサトベラ群集（調査区番号-6, 8,19,22,50）

宝島の一次砂丘地では海側をオキナワハイネズ群落やハマボウフウーツキイゲ群集、内陸側をアダン群集に接する植生配分で本群落が確認される。本群落は低木のモンパノキあるいはクサトベラが優占する。群落の高さは0.5～1.2m、植被率も40～95%、群落幅2～5mと空隙が目立つ群落となっている。海岸の厳しさを反映し出現種数は4～11種と低木林としては非常に少ない。ホソバワダン、ハマアズキ、ボタンボウフウ等の常在度が高い。本群落は北岸から東岸で見られるが、西岸では海岸侵食のためほとんど見ることはない。

モンパノキは現在宝島が分布の北限であり、クサトベラは種子島までの分布で、モンパノキを含むクサトベラーモンパノキ群集としては宝島が北限となっている。本群落は、内陸側に続くアダン群集とともに潮風を遮る防風林、高波時では防潮堤、陸上の濁水を濾過するフィルターの役割を果たす多面的な機能を持つ。

1999年の調査では北東部の砂漠付近では高さ1.5～2m、植被率95～100%、群落の幅が5～8mあるものが帯状に連続してびっしりと低木層を形成していた。近年の海岸侵食によって破壊され、現在はモンパノキ、クサトベラと両種がそろって連続する群落は少なく、モンパノキが這うようにして低被度で分布しているものが多くなっている。

表-7 熱帯海岸林群落組成表

⑱モンパノキークサトベラ群集 ⑲アダン群集 ⑳オオハマボウ群落

群落番号	⑱					⑲		⑳	
	8	6	19	22	50	9	51	31	53
調査区番号									
調査月日 (2011年)	7月10日	7月10日	7月10日	7月10日	3月4日	7月10日	3月4日	7月10日	7月10日
標高 (m)	8	8	5	5	5	8	6	8	8
方位	—	—	—	—	SW	—	SW	—	—
傾斜 (°)	0	0	0	0	5	0	3	0	0
面積 (m ²)	5×5	2×2	5×5	3×3	3×10	5×5	10×5	8×8	3×0
低木層 (S) の高さ (m)						4	4.2	3	2
低木層 (S) の植被率 (%)						100	100	100	90
草本層 (H) の高さ (m)	1.2	0.5	0.4	1	1.5	0.3	0.5	0.5	0.5
草本層 (H) の植被率 (%)	95	80	40	95	90	0.1	1	1	5
出現種数	11	6	4	8	3	3	4	11	3
和名									
階層	8	6	19	22	50	9	51	31	53

モンパノキークサトベラ群集標徴種・区分種

Argusia argentea	モンパノキ	H	5・4	4・4	2・2	5・4	・	・	・	・	
Crepidiastrum lanceolatum	ホンバワダン	H	・	1・2	3・3	1・2	・	・	・	・	
Scaevola frutescens	クサトベラ	H	2・2	・	・	・	5・5	・	・	・	
アダン群集区分種											
Pandanus tectorius	アダン	S	・	・	・	・	・	5・5	5・5	+	・
		H	・	・	・	・	+	・	・	・	・
オオハマボウ群落区分種											
Hibiscus tiliaceus	オオハマボウ	S	・	・	・	・	・	・	5・5	5・5	・
		H	・	・	・	・	・	・	・	+	・
その他の種											
Ipomoea indica	ノアサガオ	S	・	・	・	・	・	+	2・3	・	・
		H	・	・	・	・	+	・	+	+	・
Vigna marina	ハマアズキ	H	1・2	2・3	・	・	・	+	・	・	・
Peucedanum japonicum	ボタンボウフウ	H	1・1	2・2	・	・	・	・	・	・	・
Paederia scandens	ヘクソカズラ	S	・	・	・	・	・	・	・	・	・
		H	+	・	・	+	・	・	・	・	・
Angelica japonica	ハマウド	H	+	・	・	・	・	・	・	・	+

出現1回の種

Also in 6: Hedyotis strigulosa var. coreana ソナレムグラ H+, Miscanthus condensatus ハチジョウススキ H 1・2, in 8: Thuarea involuta クロイワザサ H+, Liliium longiflorum テッポウユリ H+, Ischaemum aureum ハナカモノハシ H 1・1, Sonchus oleraceus ノゲシ H+, Canavalia lineata ハマナタマメ H 1・2, in 9: Smilax sebeana ハマサルトリイバラ S+, H+, in 19: Lotus australis シロバナミヤコグサ H+, Cirsium brevicaulis シマアザミ H 1・2, in 22: Spinifex littoreus ツキイゲ H 2・2, Cassytha filiformis スナヅル H+・2, Calystegia soldanella ハマヒルガオ H 1・2, Crinum asiaticum var. japonicum ハマオモト H 1・1, Rosa wichuraiana テリハノイバラ H+, in 31: Heterosmilax japonica カラスキバサンキライ S+, Smilax bracteata サツマサンキライ S+, Pueraria montana タイワンクズ S 1・2, Ficus virgata ハマイヌビワ S 1・2, Cinnamomum daphnoides マルバニツケイ S+, Cyclea insularis ミヤコジマツヅラフジ S+, Wedelia biflora var. ryukyuensis オオキダチハマグルマ S 1・2, H+, Persicaria chinensis ツルソバ H+, in 51: Lysimachia mauritiana ハマボッサ H+, Oxalis corniculata カタバミ H+, in 53: Panicum repens ハイキビ H+,